

第 39 回

おしば展

— 飛島の植物 —

一階城輪柵跡展



日本海に浮ぶ飛島

開催期間 1986年7月30日～8月31日

開館時間 9時30分～16時30分

休館日 月曜日・祝日

入館料 大人100円・児童生徒50円

酒田市立資料館

酒田市一番町8-16 TEL 24-6544

飛島植生分布

海浜・低湿原植物群落



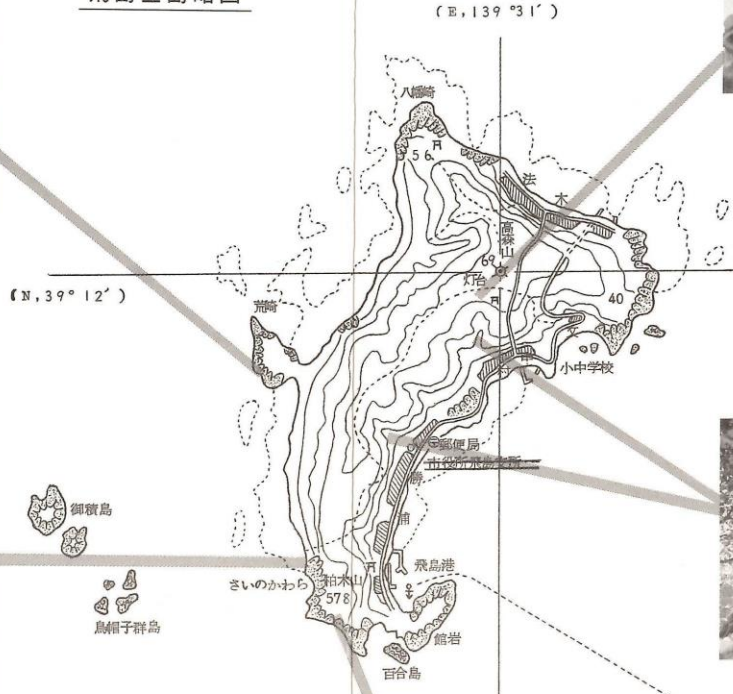
アカネムグラ

台地植物群落



トビシマナシ

飛島全島略図



照葉樹林



タブ

風衝地植物群落



カシワ

海岸岩壁・岩礁植物群落



ハイビヤクシン

鳥海国定公園 (昭和38年指定)

飛島の天然記念物

- (1)ウミネコの繁殖地(昭13.12.14.国指定)
- (2)勝浦のサンゴ類(昭31.11.24.県指定)
- (3)酒田市指定の天然記念物(昭50.4.11.市指定)
 - ・ムベの自生地
 - ・高森神社の社叢
 - ・ハイビヤクシンの自生地
 - ・荒崎の植物群落
 - ・宮谷のタブノキ林
 - ・柏木山南斜面のトビシマカンゾウ自生地

酒田市の

昭和50年7月制定
市の木 タブノキ
市の花 トビシマカンゾウ

開催にあたって

飛島は昭和25年4月、酒田市に合併されて現在にいたっています。古くから（縄文期以前）人間が住みつき伝説とロマンの島といわれています。

日本海に浮ぶ飛島は離島のため本土と異なり自然・風土ともに特色があります。今回は気候上からとらえた島の植生をとりあげ展示をしています。飛島の美しい自然にふれてみたいものです。

展示にあたって資料を提供された山形県立博物館・酒田市理科教育センター・酒田市定期航路事業所に厚くお礼申し上げます。

飛島の植物

飛島は酒田港から西北西へ約39kmの日本海に位置し、飛島本島と周辺の小島からなる本県唯一の離島です。本島は南北に長く、周囲10.2km、面積約2.3km²の小島で海面上約50mの隆起台地となっています。

気候は日本海を北上する対馬海流の影響によって、山形県では最も温暖ですが、冬期は北西の季節風をまともに受けます。

このような気候が植生にも大きな影響を与え、本島東南部のタブノキやヤブツバキなどの暖温帯林、その他多くの暖地系の植物が見られます。これに対して、冬の季節風を受ける本島西岸部は草原や低木状の落葉樹などが生育し、寒地系の植物も見られます。

本島の海岸風衝地・岩壁・岩礁・神社社叢を除く殆どの地はすでに人為的な影響を受けており、特に本島の台地上は農耕・植林地に利用されています。

植物分布上から見ても、暖地系植物の北限・寒地系植物の南限となっているものも少なくなく、トビシマカンゾウ・トビシマナシなどのように本島に自生する植物が基準標本となっている例もあります。

このように、飛島は多様なしかも貴重な植物相を呈しています。

海岸岩壁・岩礁植物群落

館岩、柏木山西斜面などは乾燥した岩壁・岩礫地となっており、ここには主としてオオウシノケグサが見られ、キリンソウ・スカシユリなどを伴います。特に柏木山の急崖地にはハイビヤクシンの自生が見られます。また、比較的湿潤な崩壊地などにはオオイ



海岸岩壁に見られるスカシユリ

タドリ群落が成立します。

西岸に突出する荒崎海岸の頸部一帯は海浜植物・海岸岩壁植物・草原植物が混生し、飛島でも特異な植生を示しています。この一帯は市指定の天然記念物です。

海浜・低湿源植物群落

本島の海岸は極めて狭く、特に東海岸は大部分が住居地となっているために自然の植生は殆んど見られません。これに対して、西海岸は礫浜・砂浜が続きオカヒジキ・ツルナなどが見られます。

また海浜の汀線と接する部分・台地下部は比較的湿地性が保たれ、アイアシ・ヨシ群落が発達します。

風衝地植物群落

西海岸沿いの台地は季節風をまともに受け、そこにはススキ草原が見られます。この群落は下草にオオウシノケグサを伴います。

また柏木山の西斜面には、エゾイタヤ・カシワ群落がじゅうたん状に密生し、地面をおおっています。

照葉樹林



小物忌神社社叢のタブ林

飛島を象徴する植生はタブ林です。この林は東海岸沿いの集落の背後や神社社叢によく見られ、八幡崎・館岩・賽の河原にも残存します。いずれも風陰にあたる立地に限られています。これらの林はす

でに極相林に達しており、群落構成は極めて単純です。かつて、

タブ林は広範囲にわたっていましたが、伐採など人為的な影響で姿を消してしまいました。ヤダケ群落はその跡地の代償植生です。

台地植物群落



台地上のクロマツ林

台地上・その緑を占める群落は殆んど常緑針葉樹及びススキ・オオイタドリを主としたものです。

常緑針葉樹林の殆んどはクロマツ植林で、台地の西半分を中心に広がっています。ススキ・オオイ

タドリを主とした群落は耕作地の緑や畑地跡を占めています。

暖地系植物

ムベ・モチノキ・ヒサカキ・ヤツデ・マサキ・ヤブミョウガ・テイカカズラ・アオキ・ヒロハイヌワラビ以上が分布の北限、タブノキ・ヤブツバキ・オオバグミ・オオバマユミ・カノコソウ・オオムラサキシキブ



自生地の北限にあたるムベ

寒地系植物

ハマナス・ハマベンケイ・ソウ・ハマハコベ・エゾツルキンバイ・アカネムグラ・エゾヒナノウスツボ・エゾオオバコ・オオバナミミナグサ・エゾノコギリソウ・ホロマンノコギリソウ・ギョウジャニンニク。

本島が基準標本の産地である植物



全島に自生するトビシマカンゾウ

トビシマカンゾウ
トビシマナシ
シマヤハズナシ
オクノハマイボタ
トビシマオトコヨモギ

その他貴重な植物

ハイビャクシン
コハマナス